

繪本  
徒然草

祐信畫鑑

中

特279-204



279

04



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始





持 279  
204



水野蔵  
己野方

牛をうる者

賞人  
明日  
よ

わさいとやして  
牛と

きんとう  
英乃らふ

和あり  
かんたんと人

換り  
人

は







仁和寺の童は師よりしんてする  
名おもて各わきまの者けりふ  
酔く身入わがまをを  
のらにくぐとほまらや  
とく紙鼻をとりし  
うのわをいし  
病いふふゆを  
身入て  
しる







凡俗のまじりご中しれ物  
 名ふぞい入並是に埋  
 をたて思をその尸  
 かりうけしとての  
 花いぢうそは後澄わん  
 俗ら新にそつれよそ  
 うつら新にそつれよそ  
 いましく教珠より知  
 むしりしそつらしそ  
 けりてそつらしそ  
 のまじり

凡俗のまじりご中しれ物

名ふぞい入並是に埋



真<sup>まこと</sup>家<sup>いえ</sup>院<sup>いん</sup>盛<sup>さか</sup>親<sup>おん</sup>傍<sup>かた</sup>おとせん  
 おくねさ智者<sup>ちやう</sup>者<sup>しや</sup>有<sup>あ</sup>りいもあら  
 やいすの成<sup>なり</sup>このそあかひ  
 かり<sup>か</sup>義<sup>ぎ</sup>の<sup>の</sup>成<sup>なり</sup>そと  
 おろさかり<sup>お</sup>祥<sup>しやう</sup>に<sup>に</sup>り  
 高<sup>たか</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>し<sup>し</sup>ぞ  
 一<sup>い</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>い<sup>い</sup>さ  
 が<sup>が</sup>え<sup>え</sup>も  
 一<sup>い</sup>み<sup>み</sup>り



書本後集







下郡の酒のまじり  
 ひとまじりては酒の味  
 何れかおのこまじり  
 具足房とて遊世  
 乃傍を逐て馬を  
 ほうりてはつてこの  
 男は先一度せうち  
 とて酒をひてけふ  
 けふもつてこの男  
 木桶のわらひくち  
 けしとわいて日暮ふ  
 くりや中へまじりて  
 刀ぬきまじり  
 人々ゆりて  
 具足房の心



とうて  
 とうて

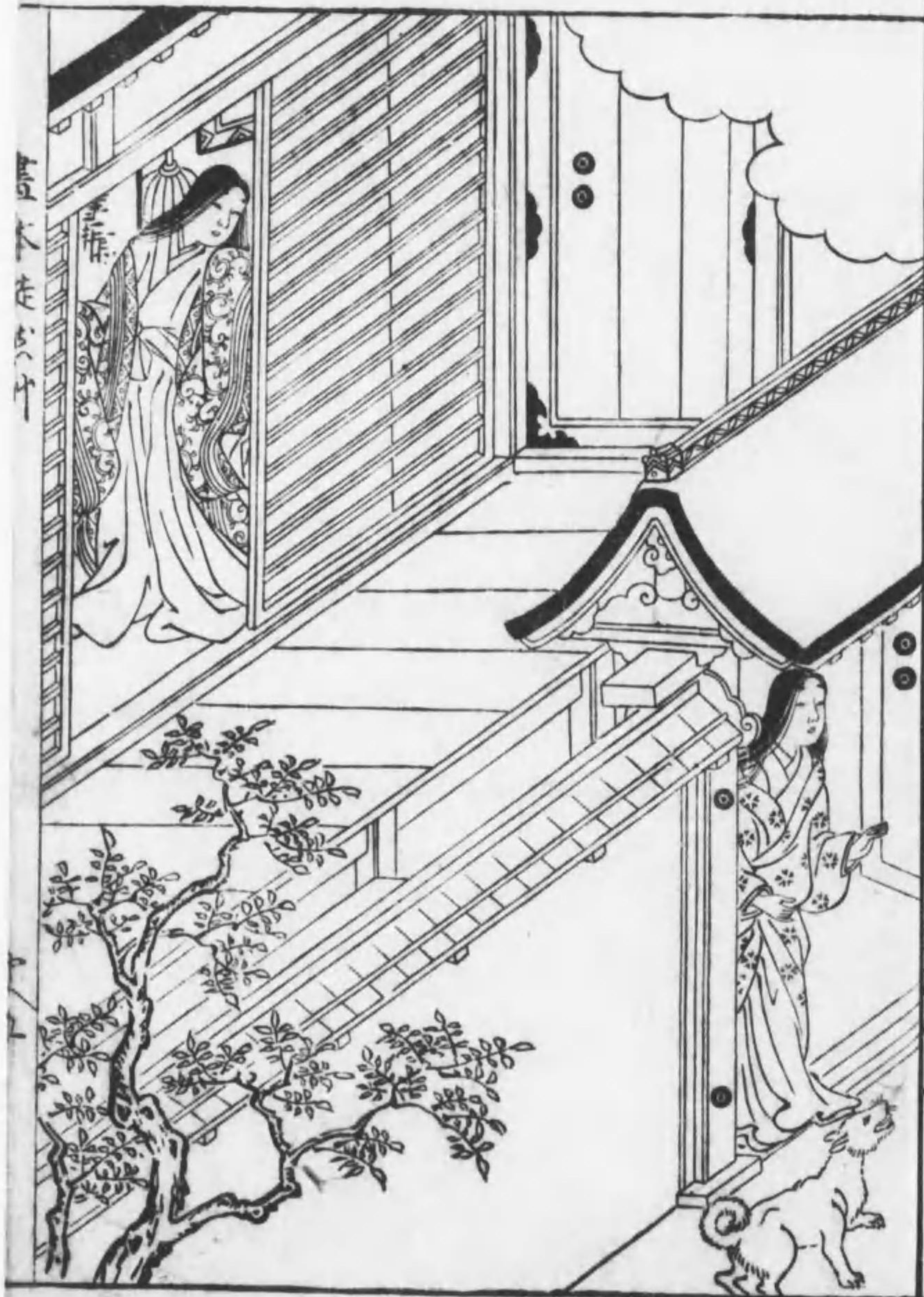


興き々き猫ねこままかかとと云いふ  
ととももねねいいももううもも  
猫ねこののへへいいてて人ひとををささる  
ままののいいららののいいららのの  
かかののいいららののいいららのの  
いいららののいいららのの  
ああののいいららのの  
いいららののいいららのの  
いいららののいいららのの

小川こがわののいいららのの  
ああののいいららのの  
いいららののいいららのの  
いいららののいいららのの







暮るる宿の人めさねり  
 女はげくろくろくあるはれ  
 ほろくろくこころはれ  
 成人さういねりん  
 夕月夜のみがつつかり  
 せいてみれり  
 あのをい  
 こころ  
 けさのあ  
 やがて  
 入る

夕月夜

暮るる宿の人めさねり





高砂の物語 高砂の物語

高砂の物語 高砂の物語

高砂の物語 高砂の物語

高砂の物語 高砂の物語

高砂の物語 高砂の物語

高砂の物語 高砂の物語

高砂の物語 高砂の物語

高砂の物語 高砂の物語

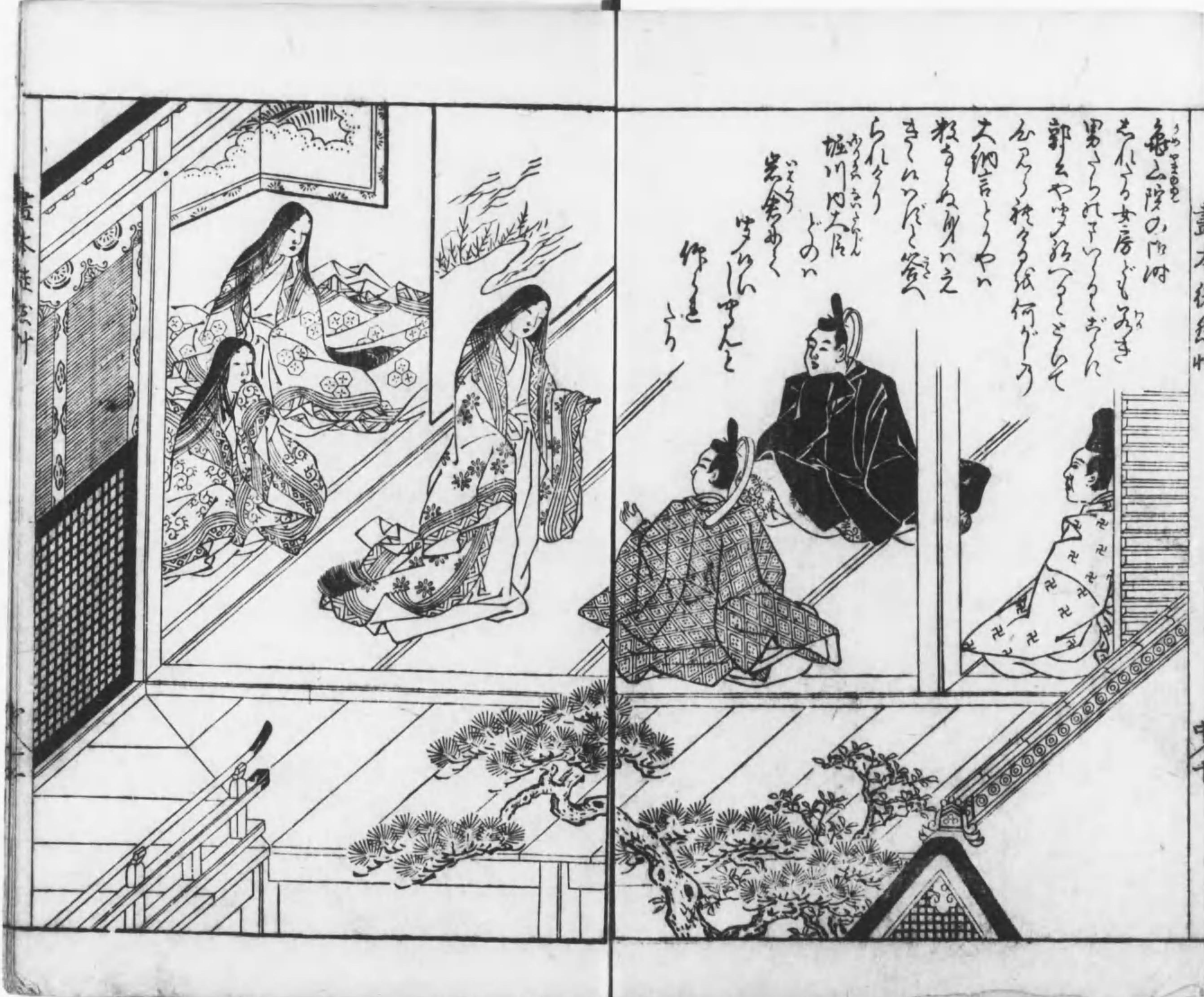
高砂の物語 高砂の物語

高砂の物語 高砂の物語

高砂の物語 高砂の物語

高砂の物語 高砂の物語





書ノ新巻中

舟山渡の所付

とれり女房どもみま

男とつれ下りておど

郭とやまはつてそと

をんつれなるは何げ

大細言とらや

教るゝぬ身いえ

まゝにわげとて

らん

堀川内大臣

よのり

お金のめく

おのり

おのり

おのり

舟山渡の所付

中









双の玉の  
あつた  
あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

書本伝説

中





古今和歌集

いそがし  
あやふしものまらぬ人の

まやかしをのこ

あびてあんない

いざん

まよふらぬ

男のこ

人のこをもつた

あけ

えがけ



今出川のおほい足強職へ  
おりしけふあつと川乃

海りに水の流るる

といま丸四半を

追てり多程に

わがさのちお板

けとのりけり

お別由東の

ちうにんち

赤のれ童うか

ついでに

おない

ゆきま

あつ







中  
五



宿河魚くつしあそびが  
 せわくあつらうそ九采の  
 念伴とPひらか丁入る  
 がらくれふは中  
 いらんや坊とPあら  
 おりまねと居るれが  
 こち中よりいらる  
 室にはひのくのさあひ  
 たそと答れが  
 ちと敷字さるる老  
 そのまを呼はけP  
 人あふそ  
 いらんや  
 こつれら  
 ありんか  
 Pさるや

中  
五

中  
五



おとすれん

うつろのちろろ

一はまきかん

こまわきかん

くらん

男つよきん

アム

酒をこのいん

みかん

お

いさめ

アム

お

お

お

お

お

一は

こまわきかん

お

お







五のそへんねん  
いなちねん

成人のあはれ

あはれ

そこやう

うらや

うらや

うらや

うらや

うらや

うらや

うらや



終

